

〔5番 児玉絵美さん登壇〕

○5番（児玉絵美さん） 児玉です。よろしくお願
いいたします。

本日は、学校教育のあり方と地域の関わりにつ
いて質問をさせていただきます。

それでは、通告に従いまして質問をいたします。

私は、島田市内のNPO法人で地域づくりの活
動をしています。地域づくりは地域の課題解決
をすることが主な事業となりますが、今や島田市
だけでなく全国的な課題に少子化や人口減少問題
があります。島田市で出会い、結婚をし、生まれ
てくる子供の数を増やすということも非常に重要
であり、島田市では妊娠出産や子育てに関する施
策は非常に豊富で、既に十分に選ばれるまちな
なっていると感じております。しかし、育っていく
子供たちの教育の部分についての施策の部分、子
育ての中の大きな柱である教育の部分の島田市の
特色がまだ少し見えづらいのではないかと感じて
います。

島田市の出生者数は年々減少をしています。島
田市の人口は2060年には6万人になると予測もさ
れています。どのまちで子供を産み、育てたいと
選ばれるまちななっていくためには、地域固有の
子供の学びの場の強化も必要であると感じます。
そのためには、島田市に生まれた子供たちがどれ
だけ地域にコミットした生きた学びの場から体験
を糧にしていくかが鍵だと思います。その体験が
ないと、子供たちは地域に愛着を持って育ちませ
ん。この一人一人のシビックプライドの芽を育て
るということと、学校と地域が連携をして、島田
市でしかできない固有の学びの場の創出をどう結
びつけ実践していくかが、この人口減少時代の地
方における重要な視点だと感じます。

また、地方にいながらも最先端の学びの場をつ
くっていくことも重要だと考えます。文部科学省
が発表している現在の教育の主な課題の中で、新
しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と

地域の連携、協働のあり方が問われています。ま
た、平成16年に学校運営協議会制度が導入され、
10年間あまりが経過した今、改めてこれからのコ
ミュニティスクールの仕組みのあり方も方向性が
示されてきております。

そこで、質問をさせていただきます。

(1) 島田市において学校教育と地域の連携・協
働した取り組みにはどんなものがあるのでしょうか。
また、その取り組みにおける効果や課題、今
後の展望についてお聞かせください。

(2) 学校と地域が新しい関係を築き、相互補完
的に連携・協働することが必要だと考えておりま
すが、島田市において子供たちの学びのために学
校と地域の共有した目標は設定されているのでし
ょうか。

(3) 地域の学校、地域で育てる子供の実現が必
要だと感じますが、学校教育側から地域へ求める
ものは何かありますでしょうか。

(4) 島田市におけるコミュニティスクールの導
入の予定はありますか。あるとしたら、具体的な
内容や時期、ないとしたら、導入しない理由や課
題は何かありますでしょうか。

以上、壇上での質問は以上となります。よろし
くお願いいたします。

〔5番 児玉絵美さん発言席へ移動〕

○議長（仲田裕子議員） 染谷市長。

〔市長 染谷絹代登壇〕

○市長（染谷絹代） では、児玉さんの1の(1)の
御質問についてお答えをいたします。島田市の
小・中学校では、学校と地域が連携したさまざま
な取り組みが行われています。例えば川根地域で
は笹間神楽、伊久美小学校ではオペレッタ、相賀
小学校では相賀谷太鼓、北中学校では門松づくり
など地域に根づいた取り組みが長年続いています。
また、登下校の見守り活動、朝の挨拶運動、全て
の中学校が実施している地元事業所での職業体験
学習、お茶づくりや米づくりなどの農業体験も地

域の皆様の協力をいただきながら取り組んでおります。子供たちは地域の方々との交流の中で地域のよさを知り、地域を愛する豊かな心が育まれています。しかし一方で、子供の減少により子供が参加する祭りなど地域活動への影響も懸念されております。教育委員会では今後も小・中学校及び地域との連携を基盤とした、社会に開かれた学校に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。島田市では平成12年度から市内の全ての学校に学校評議員を置き、学校は保護者をはじめとした地域住民の意見を反映しながら目標を定め、学校運営を行っております。

次に、1の(3)の御質問についてお答えをいたします。今後、学校と家庭、地域の役割分担が求められていくと思われれます。特に家庭教育の問題、貧困家庭やひとり親家庭の問題、地域が担う体験活動などの部分は地域全体で支えていかなければならない課題であると考えております。人口減少や少子化については、一つの学校のみでは解決できない大きな問題であり、地域の学校、地域で育てる子供は市民総がかりで取り組む重要課題であると捉えております。

島田市教育委員会は地域のよさを知り、地域のよさを知り、地域を愛する子供を育成する地育、夢育・地育という言い方をしております。夢で育み、地域で育てるという意味でございます。この地育の取り組み等を今後は地域が主体となっていく体験活動などの充実が重要だと考えております。

次に、1の(4)の御質問についてお答えをいたします。現在、コミュニティスクール導入についての具体的な内容や時期は決まっておりますが、島田市では学校評議員制度が地域と連携した学校運営として定着している上、地域コーディネーターを中心とした学校支援地域本部事業というものが既に第二中学区で成果を上げておりますので、

そのような実績をもとに、今後、島田市に合ったコミュニティスクールを研究していきたいと考えております。

以上、御答弁を申し上げます。

なお、再質問につきましては教育長または担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（仲田裕子議員） 児玉絵美さん。

○5番（児玉絵美さん） お答えありがとうございます。1の(1)についてお答えくださいましたように、地域の特色に応じて学校と地域が連携をしたさまざまな取り組みがなされていることは本当にすばらしく、うれしく思います。例えば川根地区の子供たちが帯まつりを知ったり、初倉地区の子供たちが笹間神楽を知るといったような学校区を超えた地域の文化や歴史を体験する場がこれから出てくることも期待をします。島田市の人口規模だからこそ実現可能な交流であり、学校区の交流とそこを超えた交流の双方が両輪のエンジンとなる取り組みの可能性についても期待をしております。

1の(3)についてお答えをいただきました。学校の力が及ばない、家庭教育の問題、貧困家庭やひとり親家庭の問題、地域が担う体験活動の部分は市長がおっしゃってくださいましたように、まさに地域全体で支えていくべきだと私も考えます。そしてやはり家庭が一番の子供の心のよりどころであり、そこが教育の全ての原点だと思っております。しかしながら、最近では日本の子供の6人に1人が貧困状態にあるというデータがあります。教育に関しても、共働きやひとり親世帯、習い事にかける時間とお金の格差などによる教育格差が生まれているという現状が全国的にあります。このような現状の中、全ての子供が格差なく学びの場を与えられるためには、地域の役割が今後より必要だと思います。私もNPOとしてできる取り組みを進めていきたいと思っておりますが、島

田市としてもぜひ行政の縦割りを超えた関わりを望んでおります。

再度、1の(1)について補足で質問をさせていただきます。私は島田発地域丸ごと学校計画というコンセプトのもとに、こどもわくワークという取り組みをこれまで6回にわたり開催しております。家でお手伝いをした子供が市内30カ所程度の事業所でお仕事をし、終了後には島田信用金庫でお給料としてわくマネーという疑似通貨をもらい、また市内で買い物をするという一連の仕組みです。社会に出て働いてお金を稼ぐということを初めて体験することで、子供の社会性や自主性の向上、シビックプライドの醸成、シックスポケットと呼ばれる保護者や祖父母が店舗を知り、新たな顧客になることによる経済効果や、地域と子供のつながりが生まれることによる防犯面の向上と、まだまだ少しずつですが、縦割りを超えた多面的な効果が得られております。

市内全ての小学校のほうに教育委員会の御協力を得てチラシを配布させていただいているのですが、毎回、定員の2倍を超えるほどであり、抽選になるほど人気です。また、違う小学校の子供たちと初めて顔を合わせ一緒に働くというところも、やはり学校区を超えたつながりが生まれています。昨年はキッズデザイン賞も受賞することができました。こちらは学校の授業の一環としての職場体験と違い、子供がチラシを見て、参加したい、やってみたいという自発的な気持ちから応募してくれることの効果が大きいと言えます。この事業はNPOだけで到底実現するものではなく、地元の実業所が子供の学びを地域一丸となって応援しようと協力してくれているからこそ実現できているところに大きな価値があると思っております。

また、未来のお仕事として今回からは動画制作やプログラミングなど今の子供たちが将来大きくなったときに、今はないですけれども、普通に存

在するであろう職業も取り入れています。また今後、事業所だけでなく、例えば大工の元棟梁さんですとか、英語の元先生といったような、地域にはシニア層にも市民の先生と言ってもおかしくない、素晴らしい強みを持った方がたくさんいらっしゃいます。そういう方とのつながりをつくっていったりしていくことが、新たなコミュニティの担い手としての体験の可能性もあると考えておりますし、例えば今日のこの場のような子供チェンバーといったような、子供たちがまちに対して意見を伝えられるような場づくり、文化芸術のお仕事や、例えばですけれども、市外の子供たちの受け入れをしていけば、これは観光交流といったような、子供を中心にすることで多面的な可能性があるというふうに思っております。こういう取り組みを続けていくと、やはり子供たちが持っている個性を私たちのような民間のほうからもさまざまな視点で掘り起こし、輝かせることができるのではないかと考えております。

こういった機運を島田市ならではの地域の魅力として、そして子供の学びの場が街中にあるまちとして、他市との差別化としても育てていきたいと考えております。

このような取り組みを今後、学校や島田市と連携しながら、より全市的な取り組みにしていくように、共に手を取り合いながら進めていくようなお考えはありますでしょうか。

○議長（仲田裕子議員） 濱田教育長。

○教育長（濱田和彦） ありがとうございます。学校教育、それから体験等に変な御理解をいただいたことについては、まず感謝申し上げたいと思います。

先ほど市長が答弁したように、学校教育の中ではキャリア教育として職業体験の取り組みを行っていますが、やはりそれだけでは十分でないということは事実だと思っています。島田市の商工会の青年部が実施しているジュニアエコノミーカレ

ッジや六合コミュニティが行っていますチャレンジ教室などとともに、今お話にありましたこどもわくワーク、こういうようなものは学校が関わらない地域独自の活動として大変ありがたいものだと思いますし、子供たちの自立を促すためにも大変よい取り組みだと思っています。そこで、教育委員会も後援をさせていただいております。

しかし、学校教育は平等性が求められる、または時間的な制限というのもあります。そう考えますと、一部の児童生徒を対象にした事業とか長時間が必要とされるような事業については、実施上の課題があると認識しております。しかし、地域の皆様方が行うような事業においては、大変自由度も高い上に、子供たちと地域とのつながりを深めるという考えのもとでも、今後、島田市での広がり期待しているところです。市教育委員会としましても、こういうような事業についてはできる限りの支援を行っていきたいと思っています。

以上、答弁申し上げます。

○議長（仲田裕子議員） 児玉絵美さん。

○5番（児玉絵美さん） お答えありがとうございます。教育長さんがおっしゃったように、やはり私どもの取り組みも自主的だからこそ、子供たちが主体的に参加、体験していくというところでの効果が大きい取り組みだと思っています。行政の縦割りを越えたさまざまな効果を生む大きな可能性を秘めた取り組みだと思っていますので、私どもも今後また進めていきたいと思っています。

私自身は今、小学校5年生になる息子がいます。息子は現在、島田第四小学校に通っておりますが、これまでお世話になった先生方や、昨年度まで学童保育のほうにもお世話になっていたのですが、本当にきめ細やかに一人一人の個性を見詰めてくださっており、日々感謝をしております。

しかし一方で、学校の先生の負担の大きさがニュースにもなっています。先生方には感謝してい

るとともに、やはり御負担も多いのだろうなということを感じております。これは学校という場所のあり方の時代の転換期に来ているからではないかというふうに感じます。だからこそ、これまで申し上げてきました学校と地域の相互補完的な連携や協働を進める必要があると考えております。

そこで、質問をさせていただきます。教職員の皆様の多忙化は保護者としても感じております。そんな中でも先生方は子供たちや保護者にとっても丁寧に対応してくれていると感じておりますが、このような現状の中、地域が学校や教育に何か関わって協力できる部分はないか、質問をさせていただきます。

○議長（仲田裕子議員） 濱田教育長。

○教育長（濱田和彦） ありがとうございます。先ほどもお礼を申し上げましたが、今回のこの質問についてもお礼を申し上げたいと思います。教員の多忙化について、本当に御理解と御心配をいただいているということについて、本当に心から感謝申し上げます。

学校教育の充実には、地域の力が欠かせないということは、これは本当にそのとおりで思っています。今年3月に作成した教育大綱の中でも、市民総がかりという言葉を使わせていただいております。市民総がかりで育む豊かな心と学びというのを基本理念として制定したところです。島田市教育委員会としましても、本年度、先ほど少し市長からもありましたが、夢育・地育推進事業というものをスタートさせておりますし、その中で子供たちが島田市を好きになる取り組みや学習を充実させるための地域力の活用というのですか、そういうことに力を入れているところです。この事業を推進していくためにも、地域の皆様の御理解と御協力がぜひ必要だと思いますから、またお力添えをいただけたらありがたいと思います。

以上、答弁申し上げます。

○議長（仲田裕子議員） 児玉絵美さん。

○5番（兒玉絵美さん） ありがとうございます。

島田市の学校の皆様のお考え、そして島田市のお考えは、子供たちと地域を向いてくださっているというふうに改めて今日感じることができました。しかし、まだまだ開かれていない部分もあるのではないかと感じます。コミュニティスクールの研究や導入ですとか、地域コーディネーターの導入が島田市全域に早期に広がっていくことを期待しております。地域と学校が今後よりお互いの役割を理解し合いながら、もっと双方が本当の意味で開き、連携していくための共通の目標のもとに、島田市での魅力的な学びの実現に向け、私自身も地域側として、また一人の母親として今後もできることを行ってまいりたいと思います。ありがとうございました。

以上で質問を終わらせていただきます。